

実践団体情報

記入日	西暦 2021 年 12 月 25 日 (2021 年度のチャレンジプラン)
実践団体名	京都府立東稜高等学校キャリアコースライフマネジメントクラス
代表者名	学校長 高橋 文正
プラン全体のタイトル	実践マネジメント第 2 章—京都東稜のぼうさい普及活動— 京都らしさを合言葉に活動をしている。今年度は昨年度以上に地域とのつながりを重視した活動に力を注いだ。
電話番号	075-572-2323
メールアドレス	touryou-hs@kyoto-be.ne.jp
実践団体の説明	本団体は京都初の防災カリキュラムを取り入れたクラスである。週に 4 時間の学校設定科目を設け、防災、環境、公共分野の学習に取り組んでいる。京都の地域性を活かし歴史防災学習に力を入れている。
所属メンバー	学校長：高橋 文正 副校長：川口 俊彦 防災担当教員：山本 雄貴、佐々木 陽輔、森野 稔弘 岸畑 祐輝穂、糟野 譲司
活動地域	本校校内、京都市伏見区北醍醐学区 京都市山科区、東福寺、京都府議会 兵庫県淡路市北淡震災記念公園 など
活動開始時期・結成時期	2017 年度より発足 今年度は 3、4 期生 79 名で活動
過去の活動履歴・受賞歴	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2020 年度防災教育チャレンジプラン実践団体採択 ・ 2021 年度ぼうさい甲子園 しなやか with コロナ賞受賞 ・ 2017 年度より 全国防災ジュニアリーダー参加 ・ 2021 年度京都光華女子大学ビジネスプランコンテスト、 本クラス生徒 1 名グランプリ受賞 ・ 2019 年度 自衛隊京都地方協力本部より感謝状

<p>プラン全体の概要</p> <p>(3つの内容を下に各学年が実施した内容を紹介、2年次は基本的知識を学び、3年次に実践的な学びを取り入れています)</p>	<p>① 避難所設営動画づくりにチャレンジ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2年生：災害ボランティアに関する講演、身近にあるもので応急手当体験、AED講習、マンホールトイレ上屋づくり体験、HUG体験、京都府議会での防災意見交流 ・ 3年生：地域調査、段ボールベッド等組み立て作業、伏見区役所醍醐支所による講演、北醍醐地区自主防災会との避難所設営動画づくり、地域への動画DVD配布活動、北醍醐地区総合防災訓練での発表、避難訓練企画 <p>② 動画教材、ICT配信活動にチャレンジ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2年生：防災ジャーナル『マネ知識』の配信、昼休み週1回の防災ちゃんねる放送 ・ 3年生：自転車交通安全CMコンテスト製作、動画教材M-TUBEの制作、小学校出前授業のオンライン学習 <p>③ 歴史防災教訓学にチャレンジ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2年生：京都の世界遺産日帰りツアープレゼン大会、文化財保護学習、文化財改修工事現場視察、火災の歴史 ・ 3年生：歴史防災教訓学シリーズ(日本史学習と連動) <p>①疫病今昔物語②方丈記—安元の大火から学ぶ—③祇園祭と災害④応仁の乱と文化財消失⑤巨椋池の歴史⑥天下人と災害⑦水害都市京都など</p> <p>歴史防災探究チームによる京都フロンティア校研究成果発表会での発表</p> <p>④ その他のチャレンジ</p> <p>医療用ガウンづくり(本校ライフサポートクラス、生徒会と連携)、学校行事にも防災学習(2年研修旅行：長野県志賀高原—ノ瀬スキー場で雪山の災害についての学習、校外学習：北淡震災記念公園での学習)</p>
---	--

プランの年間活動記録(2年の活動=青色 3年の活動=赤色 2, 3年合同=黒色)

	プランの立案と調整	活動準備	実践活動
4月	防災教育チャレンジプランプロジェクトチームによるチーム別企画、立案	伏見区役所、北醍醐地区自主防災会との打ち合わせ	コロナウイルス意識調査
5月			歴史防災教訓学①
6月		M-TUBE チームによる動画編集、作成	災害ボランティア、自衛隊講演
7月	世界遺産日帰りツアープレゼン大会立案	日帰りツアーチーム別活動	伏見区役所による避難所に関する講演、プレゼン大会
8月	卒業研究にむけて		
9月	避難所設営動画調整	設営動画生徒の役割分担	歴史防災教訓学②
10月	防災ジャーナル立案	小学校オンライン授業準備 防災ジャーナル作成活動	避難所設営動画づくり 小学校オンライン授業
11月	本校避難訓練立案	総合防災訓練、自主防災会、消防署打ち合わせ	本校避難訓練 北醍醐地区総合防災訓練
12月	卒業研究発表予選		防災ジャーナル配信
1月		環境と防災発表準備	研修旅行：雪山と防災講演
2月		卒業研究発表会準備	卒業研究最終発表会 震災語り部講演 京都フロンティア校研究成果発表会
3月	新年度に向けての立案		

プラン全体の反省点・課題・感想	コロナ禍においてどのように工夫をしていくかが大きな課題であった。小学校の出前授業はオンライン授業として生徒と児童の交流に変えることができた。また、避難所設営動画については、行政、消防に限らず広く意見を聞き、より良いものに更新していきたい。
今後の活動予定	2年間、成長の機会を頂いたチャレンジプランの助言をもとに、設営から運営への主体的な関わりを意識した活動に変えていきたい。また、地域のつながりを広めていくために、新たに「防災博覧会」と題し、生徒の企画を進め、地域で展示発表などをする機会をつくっていきたい。

実践したプランの内容と成果

記入日	西暦 2021 年 12 月 26 日 (2021 年度のチャレンジプラン)
実践団体名	京都府立東稜高等学校キャリアコースライフマネジメントクラス
実践番号	1
タイトル	避難所設営動画づくりにチャレンジ
実践担当者のお名前	山本 雄貴、佐々木 陽輔、森野 稔弘 岸畑 祐輝穂、糟野 譲司

実践にかかった金額	3万円未満
実践の準備にかかった時間	約 10 時間
実践活動を実施した日時	西暦 2021 年 4 月 1 日～西暦 2022 年 1 月 31 日
実践の所要時間	2 年生 : 10 時間 3 年生 : 15 時間
実践の運営側で動いた人の人数	教職員 5 名 生徒 79 名
防災教育の対象者の属性	高校生・教職員・保護者/PTA・地域住民・高齢者
防災教育の対象者の人数	約 120 名
実践を行った都道府県と市区町村	京都府京都市伏見区
実践を行った具体的な場所	京都府立東稜高等学校体育館、京都府議会など
★実践に必要なだった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	伏見区役所醍醐支所、醍醐消防分署、タブレット端末 動画編集ソフトなど

達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・避難所設営においての基礎的な知識を 2 年次に学び、3 年次の実践につなげる ・生徒たちが地域とつながり動画作成や台本作りに関わり、主体的な学びを深める ・動画を配布し、京都全体の防災啓発の一助を目指す 	
どの力を身につけようとしたか？	知識・技能	大いに
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	大いに

<p>実践内容・方法</p>	<p>◎ 2 年生</p> <p>6 月 災害ボランティア講演(避難所のボランティアについて) 自衛隊京都地方協力本部講演(災害支援と救命方法について)</p> <p>11 月 京都市上下水道局講演(マンホールトイレ上屋づくり体験)</p> <p>1 月 HUG の体験(次年度 1 年生にも啓発を検討) 京都府議会での学習(府議会議員に 3 つ の防災に関するテーマで意見交流)</p>  <p>◎ 3 年生</p> <p>4 月 伏見区役所醍醐支所、北醍醐地区自主防災会との計画</p> <p>6 月 北醍醐地区地域調査フィールドワーク 段ボールベッド、折り畳み式パーテーション組み立て体験</p> <p>7 月 伏見区役所醍醐支所より避難所設営までの 流れについて学習</p>  <p>9 月 動画作成役割分担、発表準備</p> <p>10 月 避難所設営動画を地域の方と協力し実践</p> <p>11 月 北醍醐地区総合防災訓練で動画を発表</p> <p>11 月 避難訓練で避難所設営について 全校生徒に啓発</p>  <p>1 月 地域に作成した DVD を配布</p>	
<p>得られた成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の方が生徒たちの学びの様子を知る機会になり、今後の地域連携に向けた第一歩となった。 ・ 動画 DVD を配布することで、生徒達が京都の防災啓発活動の一躍を担うことができた。また、本校のスポーツ、サポートクラスなどのクラスの特徴を活かした設営の役割分担を模索することができた。 	
<p>どのくらい身につきましたか？</p>	<p>知識・技能</p>	<p>大いに</p>
	<p>思考力・判断力・表現力</p>	<p>大いに</p>
	<p>学びに向かう力・人間性</p>	<p>大いに</p>
<p>課題・苦勞・工夫</p>	<p>他団体とは違い動画を作成することで、初動対応をイメージすることに力を注いだ。一方では、今年度は初動の部分で終わったが、今後は、生徒が運営までを一括して行えるように展開していきたい。そのために、専門的知識のある方からの助言を賜りたい。</p>	

⑤ 京都府立東稜高等学校キャリアコースライフマネジメントクラス

★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について	
関係者の名前・団体名	北醍醐地区自主防災会、伏見区役所醍醐支所
関係者の説明	避難所設営動画の作成に関わる協力団体
関係者の名前・団体名	京都市上下水道局
関係者の説明	上下水道の仕組み、災害対策、マンホールトイレ上屋づくり体験
関係者の名前・団体名	自衛隊京都地方協力本部
関係者の説明	災害派遣についての学習、身近にあるもので応急手当
関係者の名前・団体名	京都市ボランティアセンター
関係者の説明	災害ボランティアについての現状と課題、クロスロード体験
関係者の名前・団体名	京都府議会 議会事務局
関係者の説明	京都府議会議員の方と京都の防災についての意見交流

★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ	
伝えたい相手	学校関係者
伝えたい内容	日中の災害時に主体的に関われる生徒の育成の必要性

⑤ 京都府立東稜高等学校キャリアコースライフマネジメントクラス

記入日	西暦 2021 年 12 月 26 日 (2021 年度のチャレンジプラン)
実践団体名	京都府立東稜高等学校キャリアコースライフマネジメントクラス
実践番号	2
タイトル	動画教材、ICT 配信活動にチャレンジ
実践担当者のお名前	山本 雄貴、佐々木 陽輔、森野 稔弘 岸畑 祐輝穂、糟野 譲司

実践にかかった金額	ほぼ 0 円
実践の準備にかかった時間	約 20 時間
実践活動を実施した日時	西暦 2021 年 4 月 8 日～10 月 29 日
実践の所要時間	約 5 時間
実践の運営側で動いた人の人数	教職員 5 名、生徒 79 名
防災教育の対象者の属性	高校生、小学生、PTA、保護者など
防災教育の対象者の人数	1200 名以上(本校生徒 620 名、小学生 80 名 保護者 620 名)
実践を行った都道府県と市区町村	京都市伏見区
実践を行った具体的な場所	地域の小学校、京都府立東稜高等学校
★実践に必要な特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	学習支援アプリ Classi、タブレット端末、京都市ハザードマップなど

達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・動画作成に必要なスキル、表現力を身につける ・学習支援アプリを使った防災ジャーナル等の配信をとおり、校内の防災意識を高める ・地域の小学校の実態を調べ、適切な防災学習を生徒が理解を深める 	
どの力を身につけようとしてきましたか？	知識・技能	かなり
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	大いに

<p>実践内容・方法</p>	<p>◎ 2 年生</p> <p>9～10月 防災ジャーナル『マネ知識』作成作業 (2人1組で災害、交通安全などのジャーナルを作成)</p> <p>11月 教育プラットフォーム Classi にて『マネ知識』配信 (生徒・教職員、保護者のグループにそれぞれ週に1回配信、またホームページにも掲載)</p> <p>1月 昼休みを使い防災の知識について『防災ちゃんねる』を週に1回放送。 こちらは全国防災ジュニアリーダー育成オンライン会議のアクションプランの発表を受けて実践</p>  <p>◎ 3 年生</p> <p>5～7月 チャレンジプランプロジェクトチームより</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自転車交通安全 CM コンテスト動画作成チーム (KBS 京都のコンテストに応募) ・M-TUBE 動画配信チーム (地震の対応などの動画をアップロード) <p>9～10月 地域の小学校とのオンライン出前授業準備</p> <p>10月末 小学校とのオンライン授業実践 (ZOOM を用いて生徒たちが校区の危険エリア、川の氾濫や土砂災害、火災の対応や避難の方法、また交通安全などの分野で写真を用いてクイズ形式で実施)</p> 	
<p>得られた成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度不十分に終わった小学校の出前授業は、ZOOM でつながり、地域の実態に合わせた防災学習ができた。 ・2年生も昨年度に引き続き防災ジャーナルを配信し、知識の習得、表現力を高めることができた。 	
<p>どのくらい身につきましたか？</p>	<p>知識・技能</p>	<p>かなり</p>
	<p>思考力・判断力・表現力</p>	<p>大いに</p>
	<p>学びに向かう力・人間性</p>	<p>大いに</p>
<p>課題・苦労・工夫</p>	<p>オンラインの利点を活かすことはできたが、教職員がその環境を整え</p>	

⑤ 京都府立東稜高等学校キャリアコースライフマネジメントクラス

	<p>ている現状がある。今後に向けて、ICT の設定なども出来る限り生徒たちが積極的に行えるよう授業展開にも工夫をしていきたい。その一方、アプリの活用についてはこちらが生徒から学ぶことがあった。</p>
--	---

★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ	
伝えたい相手	学校関係者
伝えたい内容	現状の学校環境にあるツール(ホームページや学習支援アプリなど)を活用することの有効性

⑤ 京都府立東稜高等学校キャリアコースライフマネジメントクラス

記入日	西暦 2021 年 12 月 26 日 (2021 年度のチャレンジプラン)
実践団体名	京都府立東稜高等学校キャリアコースライフマネジメントクラス
実践番号	3
タイトル	歴史防災教訓学にチャレンジ
実践担当者のお名前	山本 雄貴、佐々木 陽輔、森野 稔弘 岸畑 祐輝穂、糟野 譲司

実践にかかった金額	10 万円未満
実践の準備にかかった時間	約 10 時間
実践活動を実施した日時	西暦 2021 年 4 月 1 日～年度末まで
実践の所要時間	約 35 時間
実践の運営側で動いた人の人数	教職員 5 名、生徒 79 名
防災教育の対象者の属性	高校生、教職員、他校高校生、京都府教育委員会関係者
防災教育の対象者の人数	約 200 名(本校生徒と京都フロンティア校研究発表会参加者)
実践を行った都道府県と市区町村	京都市伏見区、東山区、山科区
実践を行った具体的な場所	京都府立東稜高等学校、東福寺
★実践に必要な特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	京都橘大学文学部歴史遺産学科、京都府教育委員会文化財保護課、古地図「京都の歴史」など

達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の文化財、歴史教育への興味・関心を災害史の観点から理解を深める。 ・郷土愛を育み、地域社会に参画できる人材を目指す。 ・学習活動を通してプレゼンテーション能力のスキルアップを目指し、アウトプット活動を行う。 	
どの力を身につけようとしていましたか？	知識・技能	大いに
	思考力・判断力・表現力	かなり
	学びに向かう力・人間性	大いに

<p>実践内容・方法</p>	<p>◎2年生</p> <p>4月～6月 京都の世界遺産日帰りツアープレゼン準備(京都の世界遺産への知識を深める日帰りツアーを企画する)</p> <p>6月 プレゼンテーション能力のスキルアップ(京都光華女子大学キャリア形成学科高野拓樹先生より講演)</p> <p>7月 世界遺産日帰りツアープレゼン大会</p> <p>11月 文化財保護学習(文化財とは何か、文化財の保存などについて本校教員より講義)</p> <p>12月 江戸期の火災についての学習</p> <p>2月 文化財改修工事現地視察(京都府教育委員会文化財保護課、京都橘大学文学部歴史遺産学科の協力を賜り、東福寺常楽庵客殿の改修工事の現場視察と、寺社仏閣の防災対策についてのフィールドワーク)</p> <p>◎3年生</p> <p>5月 疫病今昔物語 (平城京を襲った天然痘から当時と今の水際対策を学ぶ)</p> <p>6月 方丈記から学ぶー安元の大火ー(古典を現代語訳し、当時の古地図を用いて火災の焼失範囲を探究する)</p> <p>7月 祇園祭について(祇園祭と災害の歴史の関係性について祭りの目的を学習) 巨椋池の歴史(伏見にまたがる巨椋池の干拓事業)</p> <p>10月 応仁の乱(文化財の焼失の学習と復興について西陣織や地域にある醍醐寺の歴史を取り上げて学習する) 天下人と災害(天正大地震、慶長伏見地震から秀吉と家康の命運を考え、幻の指月城の歴史に触れる)</p> <p>11月 水害都市京都(鴨川の氾濫の歴史と琵琶湖の水について)</p> <p>2月 京都府教育委員会主催京都フロンティア校研究成果発表会で歴史防災探究チームが学習内容についての発表</p>
----------------	--



⑤ 京都府立東稜高等学校キャリアコースライフマネジメントクラス

得られた成果	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒達にアンケートをとり歴史に関する興味・関心を引き出すことができた。疫病今昔物語の学習では、昔と今を比較しながら感染症対策の重要性を再確認する時間がとれた。 ・2年生はプレゼンテーション能力の基礎的知識を身につけることができた。 	
どのくらい身につきましたか？	知識・技能	大いに
	思考力・判断力・表現力	かなり
	学びに向かう力・人間性	大いに
課題・苦労・工夫	歴史防災教訓学の内容のより一層の充実を目指していきたい。また、地域の寺社仏閣とのより一層の連携も模索していきたい。専門家の意見も取り入れて、他校にはない歴史防災教訓学の指導計画をパッケージ化し、改良を加えていきたい。	

★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について	
関係者の名前・団体名	京都橘大学文学部歴史遺産学科 村上 裕道 先生
関係者の説明	文化財保護学習についての説明
★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について	
関係者の名前・団体名	京都府教育委員会文化財保護課
関係者の説明	文化財現地視察の説明、寺社仏閣の防災対策について
★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について	
関係者の名前・団体名	京都光華女子大学キャリア形成学科 高野 拓樹 先生
関係者の説明	プレゼンテーション能力のスキルアップの指導

★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ	
伝えたい相手	学校関係者
伝えたい内容	他教科と関連付けた防災学習の有効性と地域の資源を活用した防災学習の必要性

⑤ 京都府立東稜高等学校キャリアコースライフマネジメントクラス

記入日	西暦 2021 年 12 月 26 日 (2021 年度のチャレンジプラン)
実践団体名	京都府立東稜高等学校キャリアコースライフマネジメントクラス
実践番号 (団体内・年度内の通し番号)	4
タイトル	その他のチャレンジ
実践担当者のお名前	山本 雄貴、佐々木 陽輔、森野 稔弘(生徒会担当) 岸畑 祐輝穂、糟野 譲司、ライフサポートクラス担任

実践にかかった金額	30万円未満
実践の準備にかかった時間	約5時間
実践活動を実施した日時	西暦 2021 年 5 月 7 日～西暦 2022 年 1 月 29 日
実践の所要時間	約 15 時間
実践の運営側で動いた人の人数	教職員 7 名、生徒約 50 名
防災教育の対象者の属性	高校生、教職員
防災教育の対象者の人数	約 250 名(生徒 210 名、教職員 40 名)
実践を行った都道府県と市区町村	京都市伏見区、山科区、兵庫県淡路市、長野県下高井郡
実践を行った具体的な場所	京都府立東稜高等学校、北淡震災記念公園 志賀高原一ノ瀬スキー場など
★実践に必要なだった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	90リットルポリ袋など 一ノ瀬スキー場関係者

達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の中で、私たちができると題し、主体的に生徒たちが医療用ガウンづくりを行い、地域とつながる活動を目指す。 ・研修旅行や、校外学習などあらゆる場面で防災に関する知識を身につけ行動する力を身につける。 	
どの力を身につけようとしたか？	知識・技能	大いに
	思考力・判断力・表現力	少し
	学びに向かう力・人間性	大いに

<p>実践内容・方法</p>	<p>4月～6月 医療用ガウンづくり(生徒会と3年ライフサポートクラスが主催、放課後に多くの生徒がボランティアとして参加、生徒会、ライフサポートクラスの生徒が作成方法などを説明し実践)</p> <p>7月 医療用ガウンを3つの医療機関に配布</p> <p>11月 2年ライフマネジメントクラス校外学習(北淡震災記念公園にて阪神・淡路大震災の学習)</p> <p>本校避難訓練(ライフマネジメントクラスが企画、運営)</p> <p>1月 2年生スキー研修旅行(長野県志賀高原一ノ瀬スキー場にて、現地のインストラクターの方より雪山の災害や注意事項について説明)</p>	
<p>得られた成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・医療機関への配布活動をとおり、自分たちの活動が評価されることで自己有用感が身についた。 ・あらゆる学校行事の機会をとおりして全学年への防災啓発活動に結びつけることができた。また、他クラスの生徒にとって有意義な学びの機会につなげることができた。 	
<p>どのくらい身につきましたか？</p>	<p>知識・技能</p>	<p>大いに</p>
	<p>思考力・判断力・表現力</p>	<p>少し</p>
	<p>学びに向かう力・人間性</p>	<p>大いに</p>
<p>課題・苦勞・工夫</p>	<p>ガウンをとおりして医療機関との交流活動はこの1年で大きく前進した。一方で、ここからどのように発展させた活動にしていくかが課題である。学校行事に防災学習を取り入れるにあたっては、もっと様々な方法で実施できる体制を構築していく必要がある。</p>	



<p>★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について</p>	
<p>関係者の名前・団体名</p>	<p>北淡震災記念公園</p>
<p>関係者の説明</p>	<p>阪神・淡路大震災に関する学習</p>
<p>関係者の名前・団体名</p>	<p>一ノ瀬スキー場現地担当者</p>
<p>関係者の説明</p>	<p>雪山における危険行為と救命活動について学ぶ。</p>

⑤ 京都府立東稜高等学校キャリアコースライフマネジメントクラス

★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ	
伝えたい相手	学校関係者、地域の関係者
伝えたい内容	学校と地域企業の結びつきをととした活動の有効性